

週間市場レポート (2022年9月26日～9月30日)

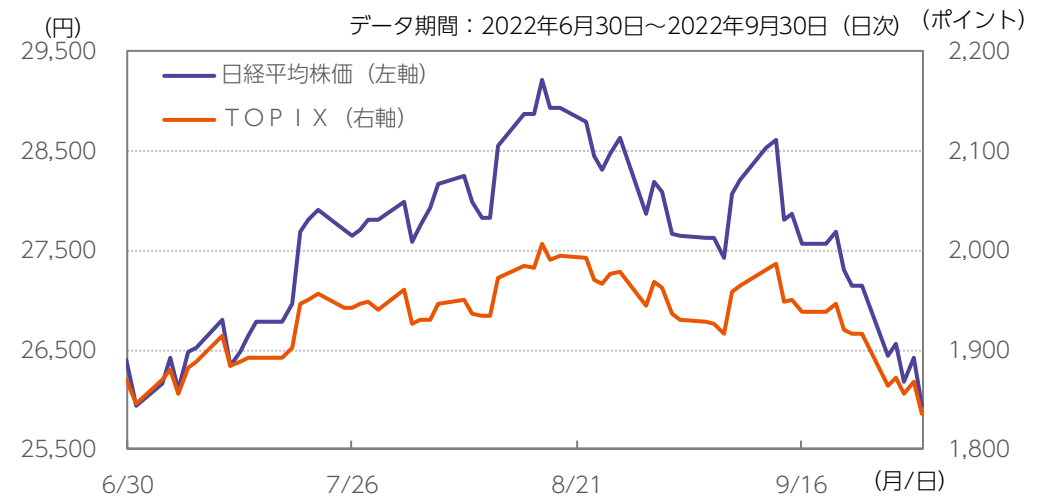
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/9/23	先週末 2022/9/30	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,153.83	25,937.21	▲ 4.48 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,916.12	1,835.94	▲ 4.18 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		29,590.41	28,725.51	▲ 2.92 ↓
S&P500種指数		3,693.23	3,585.62	▲ 2.91 ↓
ナスダック総合指数		10,867.93	10,575.62	▲ 2.69 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,348.60	3,318.20	▲ 0.91 ↓
S&P/ASX300指数		6,560.36	6,456.54	▲ 1.58 ↓
上海総合指数		3,088.37	3,024.39	▲ 2.07 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		764.70	738.74	▲ 3.39 ↓
東証REIT指数		2,017.02	1,945.25	▲ 3.56 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		719.86	689.80	▲ 4.18 ↓
ASX300 REIT 指数		1,264.00	1,225.70	▲ 3.03 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		168.43	162.00	▲ 3.82 ↓
日本10年国債 (%)		0.237	0.244	0.007 ↑
米国10年国債 (%)		3.685	3.829	0.144 ↑
ドイツ10年国債 (%)		2.024	2.108	0.084 ↑
英国10年国債 (%)		3.828	4.093	0.265 ↑
ドル/円		143.31	144.74	1.00 ↑
ユーロ/円		138.93	141.88	2.12 ↑
英ポンド/円		155.61	161.61	3.85 ↑
豪ドル/円		93.60	92.65	▲ 1.01 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,408.90	2,306.70	▲ 4.24 ↓
WTI原油先物 (ドル)		78.74	79.49	0.95 ↑
CRB指数		268.47	268.29	▲ 0.07 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）で、積極的な金融引き締めを継続する姿勢が示されるなど、欧米の主要中央銀行の積極的な利上げ観測がくすぶるなか、国内株式市場は海外の動向に大きく左右される展開となりました。英イングランド銀行（BOE）が、金融市場の安定化に向け英国債を一時的に買い入れると発表したことを受け、欧米の長期金利が低下すると反発したものの、欧米の利上げを後押しする経済指標が発表され、欧米の長期金利が再び上昇すると、週末はハイテク株や景気敏感株など幅広い銘柄が売られ、下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース *1 ▲はマイナスを表します。 *2 23日の国内市場は休場のため（秋分の日）、22日の価格を掲載

≪ 債券 ≫

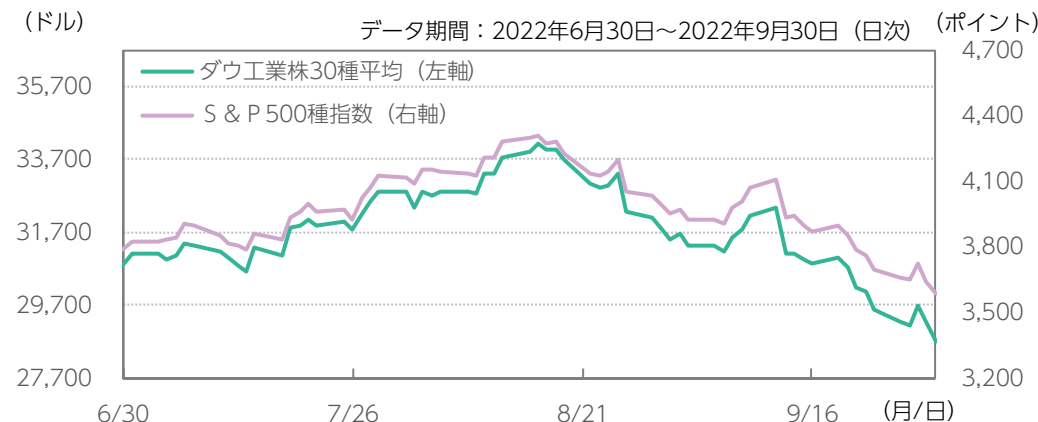
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇しました。前週末にトラス英政権が大規模な経済対策を打ち出し、インフレ加速や財政悪化への警戒感から欧米の長期金利が上昇した流れを受け、週初は上昇しました（価格は下落）。日銀が国債を無制限に買い入れる指値オペで、金利上昇を抑える場面もあったものの、米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な利上げ姿勢を受けた金利の先高観は根強く、週間では前週末比で上昇となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

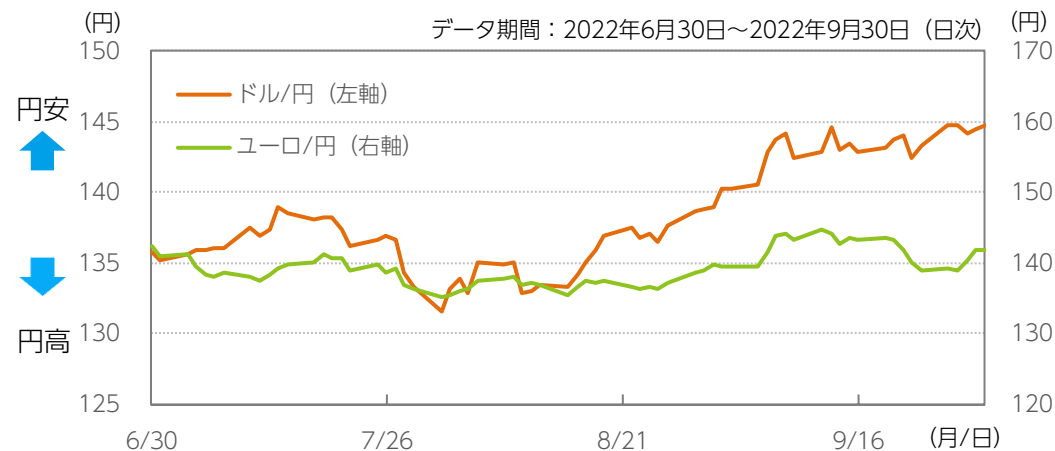
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。トラス英政権が打ち出した大規模な経済対策により、財政が悪化すると懸念から欧米の長期金利が上昇し、割高感が意識されやすいハイテク株を中心に売られました。BOEが一時的に長期債を買い入れると発表し、米長期金利が低下すると週中に反発したものの、FRBが積極的な利上げを継続するとの見方は強く、週末にかけて下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。米国をはじめとした世界の主要中央銀行による積極的な金融引き締めの長期化観測で米長期金利が大幅に上昇し、週を通じて、日米金利差の拡大を見込んだ円売り米ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

米国をはじめとする欧米の積極的な金融引き締めにもともなう景気悪化懸念や、英国の財政政策をめぐる株式市場は不安定な値動きとなりました。

9月6日に発足したトラス英政権は、大規模減税を柱とする経済対策と国債の増発計画を発表しました。減税額は5年間で約450億ポンド（約7兆円）で、過去50年間で最大であり、財政悪化への懸念から英長期金利は4%台まで急騰し、欧州諸国や米国の長期金利にも波及しました。市場の混乱を受け、BOEが一時的に国債を無制限で買い入れる緊急措置を発表すると長期金利は低下したものの、足元では再び上昇基調となっており、株式市場は長期金利の動向を受け上下に振れやすい展開が続いています。

株式市場は当面、金利の動向に一喜一憂する展開が予想されますが、ここところの急ピッチな下げの反動もあり、今週は押し目買いに支えられることとなりそうです。ただし、週末に発表される9月の米雇用統計で、労働市場の堅調さが確認され、FRBによる積極的な金融引き締めの継続が改めて意識されることとなれば、株式市場は下落することも想定されます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>